

朝来市の良さ・強み

ソフト

人や地域のつながり、市民力の高さ

- ・地域力(地域コミュニティ、支え合い)
- ・福祉・子育て環境の充実 ・シビックプライド
- ・人柄(柔軟・オープン・あったかい)
- ・まちとの関わりがある若者・子ども など

ハード

自然豊かでほどよく便利

- ・自然(農地、山林、生き物)
- ・歴史文化 ・観光資源
- ・ネット環境 ・道路(交通網、整備) など

これからの課題

- ・地域力は高いが世代交代が進まず、新しいことが生まれにくい
- ・移住者は増えているが、交流が少ない
- ・自然が豊かだが、受け継ぐ次世代が少ない
- ・ひと・自然・農業等のポテンシャルはあるが、伝える力が弱く活かされていない
- ・市外への交通アクセスは良いが市内の移動が不便 など

時代の捉え方

- ・人口減少時代への移行
- ・持続可能な循環型経済の仕組みづくりへ
- ・社会規模の縮小と新たな価値観(量より質、競争より共生、消費より循環、所有より共有)
- ・地域活性化の概念が、地域振興や人口増加から、主体的な活動の量や質、関わる人の主観的な幸福度の上昇へと変化
- ・環境と共生しながら社会経済を発展させていくという成熟の時代へ(SDGs)
- ・Society5.0の実現

第2次総合計画

あなたが好きなまち 朝来市



後期基本計画の後半

自分ごととしてのまち



将来像

(案)

人と人がつながり 幸せが循環するまち

～ 対話で拓く朝来の未来 ～

地域力をはじめとする市民相互のつながりに加え、市民と市外在住者とのつながりが、朝来市を前進させる新たな動きを育みます。つながりから生じた新たな動きが市民の幸せを創出し、新たな動きと幸せが周囲に波及・伝播してまち全体が市民の幸せであふれる『幸せが循環するまち』の実現を目指し、まちづくりを進めます。

また、社会が目まぐるしく変動し、多くのことが転換期を迎えている現代においては、将来像を実現するために、まちづくりの主体である市民、議会及び行政が、対話を通じて互いの立場や考えを理解・尊重しあい、その上で課題に対する最適解を導き出すことが重要と考えています。対話によって相互理解を深め、新たな時代に向かって朝来市の未来を切り拓いていきます。

まちづくりを進めるうえで

大切な考え方



■ 個人で育まれるもの
 ■ 人と関わって育まれるもの

8年後の「あるべきまちの状態」

①多様な学びで「やりたい」にチャレンジでき、未来をつくる「人」を育む

- ・誰でも、いくつになっても、やりたいことにチャレンジ
- ・主体性とシビックプライドを育む教育・人材育成
- ・まちにも生きる生涯学習・スポーツ
- ・地域や自然を生かした学び
- ・多様性を認め、尊重し合う社会

②人と自然が共生し、地域で循環する産業を確立する

- ・あるもの(空家・農地・文化財・自然環境)を活かす付加価値づくり
- ・若者が帰りたと思える仕事
- ・多様な働き方
- ・攻めと守りの農林畜産業
- ・観光による交流人口拡大
- ・地域内経済循環
- ・市外活力(人・事業者)の誘引
- ・次世代につなぐ環境保全

③多様なつながり・交流を育み、地域力をより高める

- ・多様な人が参加する地域コミュニティ
- ・人と人、人と地域をつなぐ人や仕組み
- ・共感とアクションにつながるインナープロモーション
- ・協働によるまちづくり
- ・まちを応援する関係人口創出
- ・まちの仲間になる移住定住
- ・未来につながる多文化共生

④誰もが居場所や役割を持ち、健幸で心豊かな暮らしを実感できる

- ・一人ひとりが地域とつながる地域共生社会
- ・地域での支え合い
- ・地域ぐるみの子育て
- ・どの世代も楽しい暮らし
- ・誰もが居場所や役割がある地域社会
- ・健幸(健康)づくり
- ・安心できる医療体制

⑤市民の暮らしを支える安全・安心な都市基盤を持続する

- ・インフラ(道路、橋梁、上下水道等)の維持管理・運営・更新
- ・防災・災害時対応
- ・暮らしを支える地域公共交通

⑥まちの動きや情報を戦略的につなぎ、効率的で健全な行財政運営を実現する

- ・対話等による開かれた広聴
- ・伝えたいところに届く戦略的な情報発信・情報共有
- ・健全な行財政運営
- ・公共施設の再配置
- ・ICTの活用
- ・互いの強みを活かした広域連携
- ・市民とともにある職員の育成